

ほけんだより

病児・病後児保育「みどり」
令和8年8月発行



今月のテーマは「**虫さされ・草木かぶれ**について」です！

子どもが虫にさされた時は症状を和らげたり、感染症を防いだりするために適切に対処することが大切です

虫にさされたら

○流水で洗い流す

雑菌などが入らないように水で洗い流しましょう ハチにさされた時は針を取り除く必要があるので早めに受診してください

○冷やす

冷やすことでかゆみや痛み、腫れが和らぎます

ハンカチなどで包んだ氷や保冷剤などをあてて冷やしましょう

○薬を塗る

かゆみがおさまらないときなどは対象年齢を確認して必ず用法用量を守って塗ってください

○爪を短く切る

子どもは虫にさされた部分をかいてしまうことがあります

強くひっかくと皮膚が傷つき傷口から雑菌が入って「とびひ」などの感染症を引き起こすことがあるため、

爪を短く切ってなるべく皮膚が傷つかないようにしましょう



草木かぶれとは

植物に触れることで、皮膚の炎症が引き起こされる皮膚トラブルです 植物の中には、草木そのものが皮膚を刺激する場合や、草木の汁が刺激性をもつものがあります

イラクサ・・・山林の木陰に多くあり、茎や葉などにあるとげ状の毛に触れると赤く腫れ、強い痛みを感じる

ウルシ・・・山林などにあり、樹液が皮膚に付くとかゆみや水ぶくれを起こすことが多い

イチヨウ・・・食用になる種子の外側の外皮(果肉)にウルシに似たかゆみ成分が含まれ、素手で何度も触ると数日後にひどいかぶれを起こすことがあります

かぶれを引き起こす植物に触ってしまったら

まずは水で洗い流しましょう。基本的にかぶれなどの症状はすぐには出ず、数日たってから現れることが多いです。放置するとやけどのように水ぶくれができ、それが破れて傷になってしまう可能性があるため、早めに受診をしてください